

サーバントリーダーシップとは

開倫塾

塾長 林 明夫

1. おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
年の瀬が迫り、この放送も今年最後となりました。皆様には1年間お聴きいただき、本当にありがとうございました。
2. さて、今月はあちこちの学校から依頼され、出張授業をさせていただきました。5日は鹿沼市立北犬飼中学校で、キャリア教育の一環として自らの進路を考えるという内容の授業をさせていただきました。同日にはまた、客員教授を拝命している作新学院大学で、経営戦略論のお話をさせていただきました。地域経済の発展は人材育成からですので、12日には益子町立七井中学校で、キャリア教育とは何か・働くとは何か・中学校時代に頑張ったほうがよいことは何かなどについてのお話をいたしました。どれも私にとって非常に勉強になり、嬉しく思っています。
3. ところで、この放送をお聴きの皆様は社会人の方が多いと思います。そこで、作新学院大学での講義で学生の皆さんと一緒に考えた「これからのリーダーとはどんな人か、リーダーシップとは何か」について少しお話させていただきます。
4. 人によっていろいろな考え方がありますが、私は「リーダーとは、歩いていて後ろを振り返ったときに何人かがついてくる人である」と考えています。そのように考えるヒントになったのは、ロバート・K・グリーンリーフが著した「サーバントリーダーシップ」という本です。これは少し厚い本ですが、2～3年前に「サーバントであれ一奉仕して導くリーダーの生き方」という薄い本が出ました。どちらも作新学院大学の学生さんに紹介しました。
5. 私がロバート・K・グリーンリーフの本を読んで特に参考にしたのは、とにかくリーダーは高いコミュニケーション力と意思決定力を持っているということです。この能力を持つリーダーには、以下の特徴があります。
1つは、他のメンバーの話を全精力を傾けて聞き、つまり傾聴し、意志を見出して明確にすることです。そうすると、折に触れて自分自身を反省することにもなります。

6. 2つ目は、話を聞くにあたっては親身になって聞き、その上で共感することです。
7. 3つめは、自分を癒すことで、他のメンバーの関係を本来の姿にすることです。心が折れてしまう方がたくさんいますが、その方々に癒しをもたらすことができるのがリーダーです。
8. 4つ目は、広く様々なことに気づく力、とりわけ自己認識力を高めることです。これは自分自身が何者かを知った上で、他の人がどんなことを感じているのかに気づくのが大事だということです。
9. 5つ目は、説得力があること、つまりこれをやるようにと無理やり従わせるのではなく、メンバーの方々を納得させようとするということです。組織の中で意思決定をするにあたっては、地位に基づく権限によるのではなく、もっぱら説得を手段としてメンバーの意見を聞きながら皆に納得してもらおう。そして、グループ内で **consensus**(コンセンサス、合意)を得ながら進めることが大事です。
10. 以上に加えて、大きな夢を見る方向で力を伸ばすためには、まとめる力・どんな結果になるかを見通す力、つまり先見力も大事です。また、**servant**(サーバント)・**steward**(ステュワード)ですから、誰かのために何かを預かるという執事の役割を果たすことも大事です。
11. このように、他の人が必要とするものに全力で応えるために、心を開いて話すことや説得することに努め、最後にはその人たちの成長に関与するのがリーダーの役割です。もちろん自分自身が成長することも大事です。ただ、一緒に働いている方々が成長できるようにそれぞれの潜在可能性を見つけ、自己実現を目指して頑張れるように力を尽くすこと・最終的にはそのようなコミュニティを作ることが、リーダーとして最も大切なことだと思います。
12. このような内容を作新学院大学でお話させていただきました。サーバントリーダーシップのもととなる考え方ですので、ぜひ参考にして新しい年を迎えていただきたいと思います。